

ねぎ(黒腐菌核病)、  
ぶどう、  
ばれいしょ等に  
使用できるようになりました。  
**適用拡大**

灰色かび病・菌核病に優れた  
効果を発揮します。

# 切れ味が凄い



250ml入ボトルもあります。

 **セイビア<sup>®</sup>**  
フロアブル20

**syngenta.**

シンジェンタ ジャパン株式会社

農薬をご使用の際は、ご購入先、または当社ホームページなどで最新の登録内容をご確認ください。

®はシンジェンタ社の登録商標

## 特長

- 1 灰色かび病・菌核病に高い予防効果**  
各作物の灰色かび病・菌核病に対し、発生初期の散布で高い防除効果を示します。
- 2 耐性菌にも確実な効果**  
ベンゾイミダゾール系、ジカルボキシイミド系、ジエトフェンカルブの各種薬剤耐性菌に対しても高い効果を発揮します。

- 3 優れた残効性・耐雨性**  
長い残効性と優れた耐雨性により、安定した防除効果を示します。
- 4 有用昆虫に影響が少ない**  
ミツバチ、マルハナバチ、蚕、チリカブリダニなどの有用昆虫に対して影響がほとんどありません。

## 適用病害の範囲及び使用方法

適用  
拡大

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	10アール当り 使用液量(L)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	フルジオキシニルを含む 農薬の総使用回数			
いんげんまめ	灰色かび病 菌核病	1000~1500	100~300	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (種子への処理は1回以内、 散布は3回以内)			
さやいんげん さやえんどう							3回以内			
豆類 (未成熟、ただし、えだまめ、 さやいんげん、さやえんどうを除く)	1000	1000~1500						1000	炭疽病	3回以内
ピーマン							1000			
らっきょう	炭疽病	1000						1000~1500	菌核病	3回以内
すいか	1000									
メロン		1000					赤かび病	1000~1500	1000	1000~1500
えだまめ	1000									
きゅうり		灰色かび病 菌核病 褐斑病					1000	1000~1500	1000	3回以内
トマト	1000									
ミニトマト		1000	フザリウム立枯病	1000	1000~1500	3回以内				
なす	1000									
いちご		灰色かび病 炭疽病	1000	1000~1500	1000	4回以内 (種子への処理は1回以内、 散布は3回以内)				
ねぎ	小菌核腐敗病 黒腐菌核病	1000								
たまねぎ	灰色かび病		1000~1500	1500	1000~1500	1000	4回以内 (定植前は1回以内、 定植後は3回以内)			
	小菌核病	500								
	灰色腐敗病		500~1000	200	1000	1回	5分間セル苗浸漬 5分間苗根部浸漬 種いも瞬間浸漬			
ばれいしょ	黒腐菌核病 そうか病	200	100~300					1000	1回	
キャベツ	菌核病 株腐病			1000	100~300	1000	3回以内			4回以内 (種子への処理は1回以内、 散布は3回以内)
にんじん	菌核病	2000	100~300					2000	1回	
にら	白斑葉枯病			1500	1000	1000~2000	2回以内			
にんにく	菌核病	1000	200~700					200~700	3回以内	
しそ	菌核病			1000	1000~2000	1000	3回以内			
食用金魚草	灰色かび病	1000	1000~2000					1000	3回以内	
食用ぎく				1000						
ぶき	1000									
ぶどう		晩腐病	1000	100~300	1000	4回以内				
花き類・観葉植物	灰色かび病	1000					100~300	1000	4回以内	

## 上手な 使い方

- セイビアフロアブル20は、特に、病原菌が植物体に侵入するのを防ぐ効果が高いので、発生前からの予防散布が効果的です。
- 作用性の異なる薬剤とのローテーション散布を心がけてください。
- 排気を十分に行ったり、被害果、被害葉はできるだけ早く処分するなど、耕種的防除を心がけてください。

## 使用上の注意事項

- 散布液調整時には、ビンを数回振って内部の成分をかき混ぜてから量を計ってください。
- 調整した薬液は、調整した当日に使いきってください。
- レタスに対して薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合はかからないように注意してください。
- ばれいしょの種いも処理に使用する場合、以下のことに注意してください。
  1. 薬液が凝集するおそれがあるので、他剤との混用はさけてください。
  2. 処理した種いもはよく風乾してから植付けてください。
  3. 本剤で処理した種いもは食糧や飼料として用いないでください。

- ぶどうに使用する場合、幼果期(小豆大)以降の散布は、果粉の溶脱を生じるおそれがあるので、幼果期(小豆大)以降は注意して使用してください。
- 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせて調節してください。
- 繰り返し使用する場合は散布間隔を7日以上あけてください。
- 連用はさけ、作用性の異なる薬剤と輪番で使用してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、普及指導

- センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- 使用の際は不浸透性手袋などを着用してください。
- 使用済みの空ビン、散布薬液の調製容器、散布器具などは水でよく洗浄し、その洗浄液は灌漑水路、排水路、河川、湖沼、井戸などの水系へ流さず、当該薬液を処理した圃場内で作物の安全を確認の上、始末してください。
- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に食品と區別し、密栓して保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器は圃場などに放置せず適切に処理してください。

# シンジェンタ ジャパン株式会社

〒104-6021 東京都中央区晴海1-8-10 オフィスタワーX 21階  
【ウェブサイト】<http://www.syngenta.co.jp>

